

持続可能な企業づくりを目指して
—社会的使命に基づく経営を目指して—

株式会社 開倫塾
代表取締役社長 林 明夫

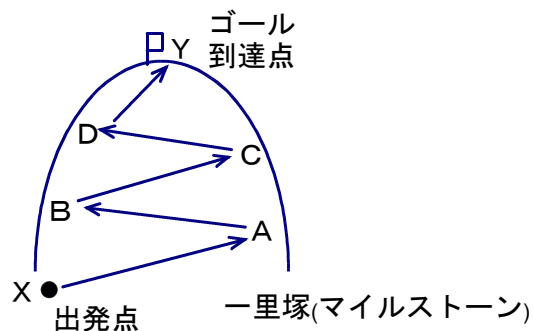
Q1：本日の講義の目的(ゴール)は何ですか。また、経営とは何ですか。

A：(1)本日の講義の目的(ゴール)

- ①企業経営者の一人である講師からの企業立ち上げから現在に至るまでの歩みの講義を開いて頂き、企業とは何か、社会に出て働くとは何かを考えるきっかけをつくること
- ②経営学や大学での学習・活動は社会に出て役に立つことを知り、これからの経営学や大学での学習・様々な活動をすすめるきっかけをつくること

(2)「経営」とは何か。経営の「定義」

- ①「経営とは、営みを経て目的(最終的な到達点・ゴール)、目標(最終的な到達点・ゴール)に達するためのいくつかの一里塚、マイルストーン)に達すること」
- ②



Q2：事例研究として株式会社開倫塾の場合を Case Study ケース・スタディとして紹介してください。

A：(1)創業に至る経緯

- ①私の学生時代
- ②大学を卒業してから創業するまで
- ③創業の理由

(2)創業から株式会社設立(5年目)まで

- ①ゼロからのスタート
- ②「人、もの、お金」
- ③何よりも会社らしい「しくみづくり」

(3)株式会社設立から今日に至るまで

- ①11校舎の壁
- ②68校舎の壁
- ③3ケタ校舎を目指して

(4)ベストプラクティスのベンチマーク(自社内、同業他社、異業種)

- ①自分以外はすべて師(励まし合う仲間づくり)
- ②暗黙知の共有化
- ③学習する組織(Learning Organization)づくりを目指す

Q 3 : 開倫塾の社会的使命は何ですか。

A : (1) 「成功の実現」に貢献

* 塾生が自己学習能力を身に付けて学力を向上させることは、一人ひとりの塾生が多様な選択肢のある人生を歩むこと、つまり「人生の成功」「成功の実現」に結びつく

(2) 「正常に機能する社会の形成」に貢献

* 塾生・保護者・地域社会の方々が学力を身に付けること・自己学習能力を身に付けることは、地域の教育力の向上、つまり「正常に機能する社会の形成」に貢献する

(3) 開倫塾は、顧客を塾生・保護者・地域社会と定義する

Q 4 : 開倫塾の事業ドメイン(事業領域)は何ですか。

A : (1) 「学校教育で不足する教育を補うこと」

* 学校教育で不足する教育は多い、山ほどある。それを補う、特に学習面で不足するものを補うことが開倫塾の事業ドメイン(事業領域)。補うからには、徹底的に補う

(2) 「学習支援サービス」(Learning Services)

* その中心は、学校成績の向上と本人が進学を希望する学校への進学のための指導・学習支援

(3) 開倫塾では、本人が進学を希望する学校を「本人にとっての一流校」と定義する

* その地域で偏差値の高い学校は「トップ校」と呼び、「一流校」とは言わない

Q 5 : 開倫塾の教育目標は何ですか。それは、具体的にどのような社会に対してどのような基本的能力を目指しますか。

A : (1) 「高い倫理」

* 「課題山積社会」に対応するための「自律的に活動する能力」

(2) 「高い学力」

* 「知識基盤型社会」に対応するための「知識・情報・技術を相互作用的に用いる能力」

(3) 「高い国際理解」

* 「グローバル社会」に対応するための「多様な集団で交流する能力」

(4) 「自己学習能力の育成」

* (1)～(3)の前提となるのは「学習の仕方を学習する(Learning To Learn)能力」

Q 6 : 開倫塾が目指す経営理念(価値として大切にすること)―事実前提ではなく価値前提の経営―とは何ですか。

A : (1) 顧客本位

①顧客とは塾生・保護者・地域社会

②顧客の成功の実現に貢献、正常に機能する社会の形成に貢献

③塾生の進学したい学校が「一流校」

(2) 独自能力

①教え方日本一を目指す

・ 教え方日本一の学習サービスを北関東のスミズミに

・ 立地は独得

②「学習の3段階理論」

③「全国模擬授業大会」の実施、本年は5月26日(日)に白鷗大学足利高校で実施

(3) 社員重視

①エンパワーメント(empowerment)の重視

・ 能力強化

・ 権限委譲

- ・雇われる能力(employability エンプロイアビリティを階層ごとに身に付けるしくみづくり)
- ②出入り自由、85歳すぎまで働ける職場づくり
- ③一人ひとりの社員のキャリア権尊重企業
- (4)社会との調和
 - ①セクシズム(男女による差別)、エイジズム(年齢による差別)、レイシズム(出身による差別)の撤廃
 - ②「企業としての社会貢献活動の推進」→「CSR(企業の社会的責任)」→「社会的企業(Social Enterprise)」へ
 - ③開倫研究所(「問題解決型教育相談所」の設置)
 - ④開倫ユネスコ協会への支援—人間の安全保障 Human Security の推進—
 - ⑤栃木刑務所での学習支援(受刑者教育)

Q 7 : 開倫塾の経営方針とは何ですか。

- A : (1)「学ぶに値する学習塾づくり」
 (2)「働くに値する職場づくり」
 (3)「倒産しない会社づくり」
 * 「企業は原則倒産」「校舎は原則閉鎖」
 昨年のように今年がある、今年のように来年があると考えたら、その翌年はない

Q 8 : 学習塾経営とマーケティングの4Pについてお話しください。

- A : (1)Product (製品・サービス) …顧客の問題解決
 (2)Price (価格) …顧客の負担
 (3)Place (立地) …顧客の利便性
 (4)Promotion (販売促進・広報) …顧客とのコミュニケーション
 * 「マーケティング」は極めて役に立つ(コトラーは必読)

Q 9 : これからのサービス産業の課題とは何ですか。

- A : (1)サービス産業への就業者は多いが……
 * 「創業」や「多角化」は容易だが…
 (2)サービス産業の生産性向上
 (3)サービス産業の海外展開
 (4)小さな組織・職場の「経営」
 (5)サービス産業としての「5S」「改善活動」「標準化」「統計的手法の活用」「ISO」「シックスシグマ」「TQM(総合質経営)」「デミング賞」「日本経営品質賞」
 * 「経営戦略論」も極めて役に立つ(マイケル・ポーターは必読)

Q 10 : 開倫塾の本社がある足利市では論語の素読や5S活動が盛んなようですね。

- A : (1)日本最古の学校「足利学校」のある街、足利市では「論語」の素読が盛んに行われている
 (2)「5S活動」の「メッカ」も足利市。「足利5S学校」は「第1回世界5Sサミット」を昨年11月5日・6日に開催。今年も開催されそうなので、ぜひ御参加を
 ①「整理」(不要なものを処分)
 ②「清掃」
 ③「整頓」(ものは決められたところに置く)
 ④「清潔」(①～③の状態を保つ)
 ⑤「躰」(自分の意志で自主的に行う)

Q11：経営学部の学生としてどのような学習をしたらよいとお考えですか。

A：(1)図書館の活用を

①「ドロッカー」「マイケル・ポーター」「コトラー」などの経営学の基本図書は必読
* ステッグリッツなどのマクロ経済学・ミクロ経済学の教科書、法律学(憲法、民法、刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法、会社法 etc)の図書も

②新聞を毎日、数紙読み続ける。英字新聞も

* 「新聞・雑誌の要約ノート」作成を

③月刊経営誌「一橋経営レビュー」「ハーバード経営レビュー」も

④古典をゆっくりと読み著作との対話を

* 「書き抜き読書ノート」の作成を

(2)TOEIC、TOEFLの準備は公式問題集を中心に(文法は高校英文法の参考書 Forest で十分)

(3)大学院という選択肢も。とちぎ MOT プログラムの活用を

* ただし、統計・確率、エクセルと SPSS は必須。高校数学の学習を

* タッチ・タイピングは必須。公式問題集の CD を何百回も聴くこと

(4)参考になる H.P.(メールはほどほどに。「3分ルール」は論外)

①「公益社団法人 経済同友会、委員会等の提言書・報告書」

②「経済産業研究所」

③「日本経済調査協会(日経調)」

④「国際連合大学」

⑤各大学の OCW(オープン・コース・ウェア)、特に「MIT OCW」

⑥「平成進化論」(鮎谷周二氏)

⑦「(マイケル・)ポーター賞」「日本経営品質賞」「ハイサービス日本 300 選」

⑧開倫塾の H.P.(www.kairin.co.jp)の中にある月～金毎日更新の「林明夫」のコーナーも御覧ください

(5)「一生勉強、一生青春」(相田みつを)、「教育ある人とは一生勉強し続ける人」(ドロッカー)

(6)大学時代の友人は一生の友人。先生は一生の恩師。少しずつでも友情を育てよう

(7)「健康第一(心の健康・身体の健康)」

(8)人間関係を保つ秘訣は、「元気なあいさつ」

Q12：最後に一言どうぞ。

A：(1)「関係は本質に先立つか」という命題があります

(2)先立つかもしれない。本質的には異なる人どうしてもよい関係をつくることはできるかもしれない。そう私は考えます

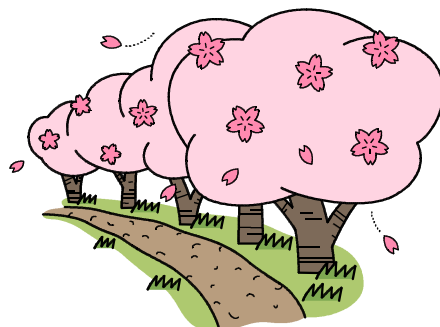
(3)自分とは異なる相手の本質(立場)を認め、尊重した上でよい関係を構築することに努めたい

Enjoy college life!!

御清聴を感謝申し上げます

御質問、御意見、コメントが

ありましたら自由に御発言ください。



以上
— 2013年4月8日記 —